

1 滋賀県による放射性物質拡散予測の概要について

(1) 予測モデル

- ・滋賀県内の大気汚染物質の濃度を予測するプログラムを改良して活用。

(2) 前提条件（福島第一原子力発電所における事故の状況に合わせた）

- ・対象とした放射性物質：ヨウ素 / 総放出量： $2.4 \times 10^{16} \text{Bq}$ / 放出時間：6 時間
（放出量が多く、短期的影響が出る可能性があるヨウ素を対象とした）
- ・予測日の選定：平成 22 年のアメダスデータをもとに、北よりの風が長時間吹き風速が緩やかな日を選定。

(3) 予測した放射線量

- ・甲状腺被ばく等価線量（空気中の放射性ヨウ素を呼吸によって取り込むことによる甲状腺の内部被ばくについての積算線量）

(4) 予測結果

- ・甲状腺被ばく等価線量は、4 段階（0mSv 以上 50mSv 未満、50mSv 以上 100mSv 未満、100mSv 以上 500mSv 未満、500mSv 以上）に色分けして表示。
⇒ 大阪府域の予測結果は、大半が 0～50mSv。50mSv 以上のメッシュがみられたもの 11 ケース、そのうち 100mSv 以上のメッシュがみられたもの 1 ケース

2 屋内退避及び避難等に関する指標（放射性ヨウ素による甲状腺の等価線量）

原子力安全委員会の防災指針（現行）

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| (1) 緑色：50mSv 以上 100mSv 未満 | 「特に記載なし」 |
| (2) 土色：100mSv 以上 500mSv 未満 | 「住民は、自宅等の屋内へ避難すること」 |

3 今後の対応

原子力発電所の事故による放射性物質の放出については、広域的な災害となる可能性が大きいことから、関西広域連合で策定する「関西防災・減災プラン（原子力災害対策編）との整合性を図りつつ、国の事故調査・検証委員会の結果や防災指針の見直しを踏まえて、大阪地域防災計画（原子力災害対策）を改訂し、府民の安全を守るために必要な方策を策定する。